

# APRICOT 2020 参加支援プログラム

## 参加報告書

提出日：2020年4月2日（木）

作成者：株式会社 QTnet

梶原 沙恵

### はじめに

本報告書において、2020年2月17日から21日にオーストラリア・メルボルンで開催されたAPRICOT 2020の参加報告を行います。JPNIC若手フェロースhipプログラムである「APRICOT 2020参加支援プログラム」の支援をいただき、カンファレンスの参加が実現しました。

本報告書では、参加したセッションと特に印象に残ったセッションについて記述し、加えて、今回の経験をどのように生かしていきたいか、参加支援プログラムに対する所感について述べていきます。

### 1. 参加したセッション(合計15セッション)

#### Conference, Day 7 (2020/2/18)

- Melbourne Cultural Walking Tour
- Opening Ceremony and Plenary
- APOPS1
- Opening Social

#### Conference, Day 8 (2020/2/19)

- Newcomers Social
- APOPS2
- Tech Girls Social
- Peering Forum: IXPs

#### Conference, Day 9 (2020/2/20)

- BGP & Routing Operations
- BGP & Routing Security
- Meet the APNIC EC Social
- 25th APRICOT Party

#### Conference, Day 10 (2020/2/21)

- Network Operations
- Closing Plenary & Ceremony
- Closing Social

### 2. 1のうち特に印象に残ったセッション

## IPv6 Adoption over Internet Exchanges (Conference, Day 7 - APOPS1)

発表者：Susan Forney (Hurricane Electric)

このセッションを選んだ理由は、IPv6 の採用状況について具体的に知ることができたためです。私は未だに IPv4 から IPv6 への移行が進んでいないと思っていました。しかし、本セッションでは、ヨーロッパ、北米、アジア太平洋地域に分けて IPv6 の採用状況が紹介されており、私の想像よりも多く IPv6 の割り当てが行われていることを知りました。しかし、そのうちの全てが使われている訳ではなく、今後の IPv6 の普及のためには IX における IPv6 のピアリングが必要であることや、IPv6 の採用は今後も増加するものの、まだ当分の間は IPv4 が利用され続けることが発表されていました。

このセッションを聞いて、私も IPv6 の普及率を向上させるために何かできることがないかを考えるようになりました。私にできることは、自社の IPv6 に関する仕事を率先して行える人材になることだと思います。しかし、今の私にはまだまだ IPv6 に関する知識が不足しています。そのため、まずは IPv6 に関する本を読んだり、発表を聞いたりすることで知識を深め、業務に活かしていくところから頑張っていきたいと思います。

## State of Peering in Korea (Conference, Day 8 - Peering Forum: IXPs)

発表者：Kwanwoo Kim (KINX - Korea Internet Neutral Exchange)

このセッションを選んだ理由は、隣国である韓国の通信事情について知ることができたためです。特に印象に残ったのは、日本と海外を繋ぐ海底ケーブルの多さです。弊社が日本と韓国間の国際光海底ケーブルを利用していることは知っていましたが、日本からあんなに多くの海底ケーブルがでていることは知りませんでした。日本の通信において、あれらの海底ケーブルがどのように使われているか調べてみたいと思いました。また、韓国における通信事情 (IX や携帯通信の状態) やデータセンターの成長について発表されていましたが、それらが日本とどのように違うのか、今の私にはわかりませんでした。そのため、まずは日本の通信事情について調査した上で、韓国との違いを見つけないかと思いました。そして、なぜそのような違いがあるのか考察し、今後の業務に活かすことができたらいいと思います。

## Tech Girls Social (Conference, Day 8)

発表者：なし

このセッションを選んだ理由は、世界中で活躍する女性エンジニアに出会え、私の中にある通信業界で頑張っていきたいという熱意が爆発的に上がったためです。

私と話してくれた女性エンジニアたちは非常に優しく、会話をしたいという私の思いを汲み取り、英語が苦手な私と根気強く話をしてくれました。その中で、彼女たちの優しさに触れ、もっと世界中の女性エンジニアがどのように働いているのか知りたいと思いました。今回は私の英語力の問題で、深い内容の話をすることはできませんでしたが、そのことが返って私の熱意を爆発的に上げることとなりました。次回、彼女たちに会えた時に自分の仕事に誇りを持って説明できるように、もっとたくさん経験を積み、自分の言葉でそのことを伝えることができるように英語の勉強をしたいと思えるようになりました。次回の Tech Girls Social には、今回より成長した私で参加したいと思いません。

### 3. 今回の経験を今後どのように生かしていきたいか

今回、初めて海外カンファレンスに参加して、自分が思っていたよりも海外活動の敷居は高くな

いことに気づきました。私は、英語が苦手で、今後も英語になるべく関わらないで生きていこうと考えていました。しかし、カンファレンスの合間で様々な参加者と交流し、各国の通信事業に関わる方と話をした際、拙い英語しか話せない私の言葉を多くの方が一生懸命聞いて、話をしてくれる中で、世界中の人と会話できる楽しさを覚え、英語への嫌悪感が減っていきました。その中で、今回は英語が苦手な簡単な会話しかできなかつたため、もっと英語で多くの人と交流したいと思うようになりました。そのため、次回、海外カンファレンスなどに参加する際、更に英語で会話を深めることができるように、英語の勉強に力を入れたいと思います。

また、今回の経験により視野が大きく広がりました。今までの国内の活動でも、多くの情報を得ることができていたのですが、自ら国外の通信事情を知ろうとしていませんでした。しかし、海外のカンファレンスでは、日本国外に関する発表が当たり前であり、それらを聴講することで、今まで関心を持っていなかった国外の通信事情について知り、関心を持つようになりました。今後は国内だけでなく世界中の通信事情の変化にアンテナを張り、自らの技術力と共にインターネットの未来を考えるエンジニアになりたいと思います。

#### 4. 参加プログラムに対する所感

本参加支援プログラムにより、貴重な経験をすることができました。感謝申し上げます。私は、海外カンファレンス初参加であったため、多くの不安がありましたが、会期前から、メールや事前情報交換会などで細かくご対応いただいたため、事前の不安はほとんどなく、日本を出発することができました。

また、JPNIC の社員さんに、実際に現地で一緒に買い物をしていただいたり、カンファレンスについて教えていただいたりしたため、会期中を一人で過ごす自信にもつながりました。いきなり一人で活動するとなったら、不安が多く、積極的な活動はできなかったと思います。

カンファレンスは自分の気になるものを選ぶことができ、一人で行動することも多かつたため、多くの外国の方と交流することができました。ずっとサポートしていただく方と一緒にいたら、逆にそれに甘えてしまっていたと思います。一緒にいてサポートしていただく反面、程よく自分の時間を持って行動することができたため、自分で頑張らないと何も結果を残せないという緊張感もあり、積極的に交流することができました。

#### 5. 謝辞

今回、貴重な機会を頂きました APRICOT 2020 参加支援プログラムへご協賛されている企業様・団体様に感謝の意を表します。

また、ご支援いただきました JPNIC 国際人材育成専門家チームの皆様、ありがとうございます。

APRICOT 2020 に参加するためにご協力いただきました皆様、ありがとうございます。

最後に、APRICOT 2020 において私と関わってくださった全ての皆様、ありがとうございます。